



El camino de santiago
スペイン巡礼路の記録
杉浦 康孝



巡礼の道

El camino de santiago

もくじ

●巡礼前夜	9月4日(木)	サンセバスチャンからスタート	1
●1日目	9月5日(金)	Pamplona ~ Puente La Reina、23.5km	5
●2日目	9月6日(土)	Puente La Reina ~ Estella、22.0km	12
●3日目	9月7日(日)	Estella ~ Los Arcos、21.8km	18
●4日目	9月8日(月)	Arcos ~ Logrono、28km	23
●5日目	9月9日(火)	Logrono ~ Najera、29km	29
●6日目	9月10日(水)	Najera ~ Santo Domingo、21km	33
●7日目	9月11日(木)	Santo Domingo ~ Belorado、22.9km	38
●8日目	9月12日(金)	Belorado ~ Ages、27.7km	42
●9日目	9月13日(土)	Ages ~ Tardajos、33.7km	47
●10日目	9月14日(日)	Tardajos ~ Castrojeriz、31.5km	51
●11日目	9月15日(月)	Castrojeriz ~ Poblacion de Campos、28.5km	56
●12日目	9月16日(火)	Poblacion de Campos ~ Calzadilla de la Cueva、32.7km	60
●13日目	9月17日(水)	Calzadilla de la Cueva ~ Sahagun、22.3km	63
●14日目	9月18日(木)	Sahagun ~ Reliegos、31km	67
●15日目	9月19日(金)	Reliegos ~ Leon、26km	70
●16日目	9月20日(土)	Leon ~ Hospital-Puente de Orbigo、32.4km	74
●17日目	9月21日(日)	Hospital-Puente de Orbigo ~ Ganso、30.2km	77
●18日目	9月22日(月)	Ganso ~ Molinaseca、32km	81
●19日目	9月23日(火)	Molinaseca ~ Villafranca del Bierzo、30.7km	85
●20日目	9月24日(水)	Villafranca del Bierzo ~ O Cebreiro、30.5km	89
●21日目	9月25日(木)	O Cebreiro ~ Samos、29.6km	94
●22日目	9月26日(金)	Samos ~ Portomarin、34km	98
●23日目	9月27日(土)	Portomarin ~ Palas de Rei、24.5km	102
●24日目	9月28日(日)	Palas de Rei ~ Arzua、28.7km	106
●25日目	9月29日(月)	Arzua ~ Labacolla、28.8km	110
●26日目	9月30日(火)	Labacolla ~ Santiago de Compostela、10.3km	114
●10月1日(水)	巡礼旅は終わった。全長約700km。ヤコブ様に感謝。		120





●巡礼前夜 9月4日（木） サンセバスチャンからパンプローナ

7時前起床。

前日の好天にも関わらず、洗濯した靴下はまだ少し湿っている。

お湯を貰ってマキアートを飲む。

お湯はフロントでは断られたが、洗濯室から出てきたおばさんに聞くと、すんなり「着いて来なさい」とばかり一階のバルに案内され、お湯をカップ一杯頂戴した。

8時。ホテルのレストランでパンとコーヒーの朝食、他に客はいない。

パンプローナ行きのバスターミナルまで歩く。15分くらい。

大きな公園の横を歩いたが、朝は結構涼しい

前日にバスターミナルの場所と時刻表は旧市街近くのインフォメーションで確認済。

バスターミナルまではすんなり行けたがチケット売場（La Roncalesa）が分からない。

バスのチケット売場は路線が運行会社毎にいくつかあるようだ。

3度ほど尋ねてようやく分かる。皆親切に教えてくれた。

チケットはすんなりと買えた。

11時発まで時間があるので、ターミナル前のバルで時間を潰す。

カフェコンレチェを飲む。

カウンターの下は相変わらずゴミだらけ。

バルの中ではタバコは自由に吸える。

11時定刻にバスは出発。バスで綺麗で新しい。座席も快適である。

ザックはバスの荷物室に預ける。

南西方向へ山に向かってかなりのスピードでバスは走る。

天候は曇りがち。

パンプローナに近くなり、高速道路のゲートをくぐる。ETCのようなゲートもある。

12時にパンプローナのかなり大きなバスターミナルの地階に到着。

エスカレータで地上に出ると出入口はガラス張りで明るい。

ガラス面に日本語で「バス停 パンプローナ」とあった。

色々な国の言葉でバスターミナルの表記があるようだ。

行き先は旧市街だが、方向が分からず若い男性に拙いスペイン語で尋ねる。

指定された方向にしばらく歩くと旧市街らしい雰囲気のある街並みに変わる。

天気は晴れてきた。

道路わきにホテルへの方向を示す標識を見つける。

そのホテルは昨年泊まったホテルでまさに旧市街の入口にある。

ホテル前を過ぎ、古い市庁舎前の広場を通過して、今晚宿泊予定のアルベルゲ（Jesus y Maria）へと向かう。

ここまで非常に順調である。



アルベルゲがある Calle Compania を探してカテドラル近くまで来た。
地図をチェックしていると、女性が「こっちですよ」とジェスチャーをまじえて親切に教えてくれた。
帆立貝をぶら下げたザックを担いだ我々の様子から巡礼者と判断し、
地図を見ている様からアルベルゲを探しているのだろうと判断したのだろう。
「グラシアス」と礼をいってその方向へ行くと直ぐにアルベルゲはあった。
ここは昨年セジョ（スタンプ）を貰う為にさんざん探し回った所である。
石造りの壁に重厚な大きな木の扉が両開きにある。
12時45分、アルベルゲに到着し受付をする。一人5ユーロ。
今回最初のセジョは正に昨年このアルベルゲで貰ったセジョの真横に押された。
ベットの番号を記した紙片を貰う。
薄暗いうなぎの寝床のような長い通路の左に二段ベットがずらりと並んである。
指定された二段ベットに荷を解く。これが我々の今夜の寝床である
ベットの前に棚があり、ザックや靴などが置けるようになっている。
ベット後ろの壁側にコンセントもあり、シーツも新しそうで、清潔そうなアルベルゲである
他のベットも既に埋まっているようである。
ザックを片付け、軽装に着替えて昼食に出かける。日差しは強い
バル街を抜け、CASTILLO 広場にあるヘミングウェイゆかりのバル「カフェイルーニャ」に向かう。
トルティージャ、ハモンセラーノ、パン、オリーブ、カニャ2杯、スモン・デ・ナランハ。
バーテンダーが昨年と同じ人だったことに多少驚く。
このオリーブは量も多く、大変にうまい。
ヘミングウェイの銅像は相変わらず入口のカウンター脇にあった。
昼食を済ませ、少し町を散策する。
アルベルゲの近くのカテドラルへ通ずる細い道は工事中だった。
ひょっとすると発掘作業だったのかもしれない。掘り起こされた底に古い礎石らしきものが見える。
市庁舎の裏手に市場を見つけた。入ってみるが中の店は閉まっている。シェスタだろう。
近くのアバラ美術館に寄るが、ここも閉まっており、5時から開くとのこと。
アルベルゲに戻る。
アルベルゲには洗濯室があり、洗濯機と乾燥機を置いてある。
どちらも有料である。
宿泊する巡礼者も増え、洗濯機もフル稼働している。
洗濯の前にシャワーを浴びる。シャワーはトイレは同じ部屋にある。
着替え以外に貴重品なども持ち込むので、それらが濡れないようになんか気をを使う。
シャワーの後、洗濯室を覗くと、終わっているのに洗濯物が残





●1日目 9月5日（金）

Pamplona から Puente La Reina まで 23.5kmの行程
曇り、3時過ぎから好天気、夜少雨、峠は風が強い



5時30分起床。

もう動いている人の気配がする。

2段ベッドの上段から音を立てないようにそっと降りる。

ザック、靴、寝袋など一抱えにして洗濯室へ行くが、

洗濯室はまだ閉まっていた。

手前の談話室のような部屋の椅子に荷物を置く。

ここには PC が2台あり、インターネットは有料で利用できる。

歯を磨き、顔を洗う。朝早くて人もいなくて、落ち着いてゆったりとトイレをする。

トイレは水洗で清潔。トイレットペーパーもちゃんとある。

行列の出来たトイレは気がせいて落ち着かないものだ。

タンポポも荷物を抱えて起きてきた。

洗濯室が開いたようなので、中の自動販売機でカフェコンレチェを飲む。50セント。

小さめの半透明プラスチック容器にコーヒーと混ぜる為の小さなスプーンも入っている。

中庭に出てコーヒーを飲み、タバコを吸う。外はまだ真っ暗。

ザックにバックする。小さな LED でベッド回りの忘れ物を確認する。

隣のドイツ人夫婦はまだぐっすり寝ている。

6時40分。アルベルゲを出発。ほとんどの巡礼者はまだベッドの中。

気温は17℃。寒くはない。

街灯があるのでヘッドランプは必要ない。

旧市街を抜け、まずはCiudadela（城塞跡の大きな公園）を目指して歩く。

この辺は昨年の調査で歩いている。

ところが公園の入口が分からない。どうも行き過ぎたようだ。

犬の散歩をしている老人に尋ねる Ciudadela と云うが通じない。

身振り手振りで教えてくれるのでその方向へ進む。

まだ暗い中、公園の芝生にスプリンクラーが回っていた。

水を避けて歩いていると、散歩のおじさんが親切に指差して、「カミーノ」と巡礼路を教えてくれる。

巡礼路は公園の中を通っている。散歩の人やジョギングの人とすれ違う。

巡礼路は公園を出て、再び町中へ出た。

車道横の歩道を歩く。時々信号があるが車は少ないので無視する。

前を長身の巡礼が歩いているので、少し距離を置いてついていく。

途中のバルでは2、3人のグループ巡礼が朝食を取っていた。

7時20分過ぎ。東の空が少し赤く明るくなった頃、ナバラ大学を通る。

構内の芝生は綺麗に手入れされて心地よい。

大学を出る頃、サンティアゴまで705kmの看板があり、セジョを貰えると書いてある。

一旦通り過ぎるが、タンポポの要望でセジョを貰いに戻る。

場所が分からず、それらしき建物に入るが誰もいない。

「オーラ」と声を出すと掃除のおばちゃんが2、3人出てきて、セジョは向こうだと入口に出て指差す。

そちらの方向に行くと、ちょうど中年の女性が車を降りてきたので場所を再度確認する

親切に 付いて来なさい と案内してくれる 道々日本人かと訪ねられる。

大学にも一人の日本人が居てどうのこうの話していたようだ。

おかげでセジョを貰えた。開いたばかりで、本日の第一号の様子だった。

巡礼路に戻り、次の町 Zizur Menor を目指す。既に前後に何人かの巡礼達が歩いている。

緩やかな上り坂の歩道を歩き、上りきった所が最初の町 Zizur Menor。

8時8分。Zizur Menor は新しい住宅が立ち並ぶ小綺麗な町だった。町中にはアルベルゲもある。

パンプローナから4.7kmの新興住宅街というところか。

朝日が昇り、やっと夜が明ける。

町を抜けると緩やかな下り坂。行く手の先は山が連なっている。稜線上にたくさんの風車が並んでいる。

巡礼路は舗道を外れ、荒れた砂利道となる。山の方へと続いている。

朝飯代わりに、昨夜のバルで余したパンを食べながら歩く。固いがおいしい。

カロリー補給にチョコバーも食べる。甘くてうまい。



Zizur Menor から Zariquiegui へ

巡礼路は何度か車道を横断し、いよいよ山に向かって徐々に上り坂になる。

回りに木々はなく、膝丈の草の野原が続いている。時々開墾されただけの赤茶けた畑が現れる。

ぽつんと2本の背の高い木があり、その脇にベンチが二つあった。

先客の女性が一人休んでいる。我々もここで最初の休憩を取ることにした。

その間に、3人の自転車巡礼が「オーラ！ブエンカミーノ」と言って元気を通り過ぎた。

荒地の上りではさすがのマウンテンバイクでも少しきつそうに喘いでいる。

自転車巡礼も歩きの巡礼と同じルートを走るのか、といささか驚き、

今日メインの峠越えは大丈夫なのか、と心配になる。

山の中腹に集落が見える。その先の稜線上の風車はだいぶ近くなった。

集落は Zariquiegui だろう。路はさらに上る。

途中の分岐点のベンチ横に十字架の墓があった。

帆立貝マークと写真、花が飾ってある。書いてあることは分からない。

巡礼の途中でここで亡くなったということなのか。

9時45分、Zariquegui を通過する。

2階建ての石造りの家が道路の両側に並んでいる。

人の気配がしない。バルも見当たらない。

村を抜け、路は左に折れる。勾配が少し急になる。

路は山の中腹を右斜め上方に横切って峠へと向かっている。

峠の手前で道は細く陰しくなった。登山道のような。

自転車巡礼もさすがに手押しで登っている。

10時25分。PERDON峠に到着。風が強くて寒い。力強い風車の音がする。

巡礼をイメージした厚い鉄板で作った等身大の像がたくさん並んでいる。

馬に乗った巡礼の像もある。

ここは車道が通じており、車から降りてきた男がなにやら紙片を配っている。

よく見ると、PRIVADOつまり私的なアルベルゲの案内だった。

PRIVADOなアルベルゲはMUNICIPAL（公的）なアルベルゲより少し高く、9ユーロくらいする。MUNICIPALは5ユーロ以下である。



Zariquegui から Uterg へ

来た道を振り返ると、遠くに低い山並が見えるが、その間は広大な平野である。

いくつかの小さな町が点在し、車道が細く走っている。

山際に緑が多いが大半は薄茶色の枯地がうねっている。

パンプローナに高層ビルはなく、もはやどこかは分からない。

風が強くて寒いので早々に下ることにする。

行き先の景色も似ているが、平野に森が点在し、緑は少し多そうだ。

石ころだらけの赤茶けて乾いた道を滑らないように注意深く下る。

自転車巡礼もスリッパしないように慎重に下っている。

11時25分。Uterga に到着。

途中、何も生えていない石ころだらけで赤茶けた土の畑が不思議だった。

町の入口で、5、6人の陽気なフランス人グループと一緒にいる。

アルベルゲを兼ねるバルで休憩。多くの巡礼たちが休んでいる。

外のテーブルでカフェコンレチェを飲み、日本から持っていったお菓子和昨夜の残りのパンを食べる。

バルのカウンターにセジョがあったので、自分で押す。

トイレを借りて、出発。

小さなアップダウンがある赤茶けた畑の中の巡礼路を歩く。

中 略



●26日目 9月30日 (火)

Labacolla から Santiago de Compostela まで
10.3kmの行程

曇り、9時過ぎ日差し



7時50分、Labacolla 出発。

やはり早く目が覚めた。まだ暗いが出掛ける事にした。

早く着く分には構わない。

ホテルのバルが開いていたので、カフェコンレチェを飲んで出掛ける。

車道から脇道に入って坂を登って行く。

土手に派手な矢印があった。黄色のペンキを塗った土台に帆立貝を矢印形に並べている。

アルベルゲの前を通過。巡礼がどっと出てきた。皆、晴れやかな顔をしている。

空が白けてきた。ゆっくりと舗道を歩く。時々笑い声が聞こえる。

テレビ局の前を通過。ガラス張りの近代的なビルだった。辺りは建物もなく木に囲まれた静かな山手だ。

歩道のマンホールの蓋の中心に帆立貝マークがあった。

前を10人程の巡礼が歩いている。足取りは軽い。

8時47分、San Marcos 到着。

キャンプ場の前を通過する。曲がり角に Monte do Gozo の標識があった。

長く真っ直ぐな舗道を進む。朝日が差してきた。坂の頂点に横並びの巡礼の姿が小さく見える。

坂を下ると、木々に囲まれた住宅地が見えてきた。朝日を浴びて白壁が輝く。

まだ静かな住宅街を進む。新しい家が多いが、古い石造りの家や石垣も残っている。

9時20分、Monte do Gozo 到着。

13.3℃。

住宅地を過ぎ、坂道を上り切ると「歓喜の丘」だった。

朝日を逆光に、大きなオブジェと小さな巡礼達の陰影が対照的だった。

巨大なオブジェは、大きな台座の上に6の字のような輪を2つ並べ、その上に十字架と像が乗っている。

十字架の中央には帆立貝があり、台座の四面は抽象的な宗教画のレリーフで飾られている。

丘の上から Santiago de Compostela の町並みが見えた。大聖堂の尖塔は残念ながら見えない。

丘を下る。途中にアルベルゲがあった。木々に囲まれた広い敷地は整備が行き届きいて快適そうだ。

さらに下ると、眼下に町並みの広がりが見えてきた。緑は多いが、既にサンティアゴの郊外なのだろう。

曲がり角に奇妙な地蔵のようなオブジェがあった。目や口がバラバラでお化けのようだが素朴である。

人間の苦悩や煩悩のようなものを表現しているように感じた。

高速道路に架かる陸橋を渡って町に入っていく。橋の歩道は粗末な木道だった。

新しく分かり易い標識が出迎えてくれた。車が増え、町並みが立て込んでくる。

小さなホテルやバル、商店が増えてきた。

斜面の広い庭に面した円形の建物を過ぎ、大口開けたスキンヘッド像の噴水の前を通る。
通勤時間なのか、芝生に囲まれたオフィス街をビジネスマンが行き来する。

トイレをしたくなり、ビルの1階のバルに入った。モダンなバルだった。

カフェコンレチェを飲む。隣の若い客が食べていたトーストが美味そうなので同じものを頼む。
トーストにバターとジャムは久しぶりだった。

新しい標識は分かり易く迷う事はない。

道路沿いの建物は切れ目なく、斜面に重なるように建物が密集している、
街路樹のある広い歩道を歩き、大きなロータリー交差点を渡って徐々に旧市街に近づいて行く。

車道は石畳になり、幅が狭くなる。古い建物が目に付きはじめ、路地の雰囲気は濃くなる。
カーブに先に大聖堂の尖塔が2つ見えた。4本の太い石柱が表の壁にあるどっしりとした教会を過ぎ
る。

噴水がある広場を抜けると両翼の長い立派な建物があつた。

正面の扇形の石段の上には入口を挟んで2本ずつ太い石柱が立っている。

大聖堂の裏に着いたようだ。石畳の坂を下り、暗いトンネルの階段を下りると広場だった。

10時44分、Santiago de Compostela 大聖堂 到着。

広い石畳のオブラドイロ広場に着いた。

大聖堂を左手に仰ぎ見ながら、広場の中央に進む。時間が早いせいか思ったより人は少ない。

向こうから来るのは10日以上前に Reliegos のアルベルゲで一緒だったイタリア人夫妻ではないか。
お互いに、おめでとう、と握手する。昨日着いたらしい。記念の写真を撮る。

広場の中央から大聖堂を仰ぎ見る。

中央に装飾を施された3つの塔がそびえ立ち、シンプルな建物が両翼に伸びている。

真中の塔を守るかのように左右の塔の方が高い。

長方形の広場は野球場ほどにも広く、由緒ありそうな建物で3方を囲まれている。

近くの人に頼んで、大聖堂を背景に2人の記念写真を撮ってもらった。

こちらをじっと見てる人がいた。Leon 以来時々見かけた痩せた長身の人だ。

やあ、とお互い歩み寄り、おめでとう、と握手する。やはり昨日着いたとのことだった。

やはり、記念写真を撮る。

大聖堂正面の石段を登って正門の前へ行く。2つの門はまだ閉じられていた。

広場に下りて、中世の服を来たガイドらしき人に尋ねる。

ミサの前に門は開くが12時前には閉まり、その場合は南門から入る事が出来る。との事だった。
まだ11時過ぎだ。ミサの前に巡礼証明書を貰っておこう、と巡礼オフィスへ向かう。



広場の出口で、長身の若いドイツ人に会った。ログローニョのアルベルゲで会って以来、何度か見かけたが久しぶりの再会だ。やはり昨日到着したらしい。握手し、記念写真を撮る。

巡礼オフィスへの途中、旅行中の日本人夫妻に出会った。

すれ違いざまにどちらからともなく、日本の方ですか、と話しかけた。

雑踏の中、しばらく立ち話をする。巡礼を始めたのだが慣れない歩きで体調を壊したらしい。3週間ほど入院し、回復後は旅行してここまで来た、との事だった。

巡礼オフィスは南門近くの建物の2階だった。長い行列の中には見掛けた事のある人もいた。

終わった人は笑顔で部屋から出てくる。中には、頭の上で証明書をかざして待つ人々に見せる。

何度か見掛けたことがあるスペイン人中年男性2人組の内の一人が出て来た。

何か話し掛けられ、分からなかったが握手した。ミサの時間を気にしながら待った。

部屋の窓際に並んだ机で3名のボランティアが受付をしている。空いた窓口に順番に進む。

セジョを集めたクレデンシャルを提出し、紙に印刷された三つの質問に回答する。

国籍、出発地、巡礼の動機だ。巡礼の動機は三択だった。宗教的もしくはその他、に○をした。

巡礼証明者は、印刷された定型の賞状のようなものに名前と日付が書き込まれるだけだった。

こうして、めでたく巡礼証明書を手にすることができた。無料である。

希望者すれば、1ユーロで証明書を丸めて入れる紙筒が買える。

急いで広場に戻り、大聖堂の正門に登ったが、すでに閉まっていた。広場を回って南門から入る。

ミサは始まっていた。聖堂の内部は広く、天井は高い。等間隔に立つ何本もの石柱が天井を支えている。

中央の大きな祭壇は黄金色に輝く装飾で実に絢爛豪華である。

ずらりと何列もの木のベンチが並んでいる。ベンチに座る人、通路に立つ人、通路を動き回る人、石

●10月1日 (水)

やはり目覚めは早い。朝食まで荷物の整理で時間をつぶす。外は曇っているようだ。
今日から歩かなくても良いのだと思うとホッとするが、一方では寂しさも感じる。



朝食は8時半からだったが少し早めに行く。朝食らしい朝食は久しぶりである。

ビュッフェ形式だった。やはりチーズやパンが多い。タンポポはスモークサーモンがお気に入りだ。

散歩がてら広場に向かう。大聖堂も見納めだ。広場に佇むとやはり巡礼に目が行く。
カナダのテリースはどうしているだろうか。あの小間使いのような少女はまだ歩いているのだろうか。
韓国のホンさんと頑張りやのヒュンチュンアンはもう着いたのだろうか。
孤独なフランス人は、アイルランドの小泉首相は、ベンジャミンは、フランス合唱団は、と一緒に歩いた人達を思い出す。

10人程の巡礼が、広場の中央に一列に寝転んで空を見上げている。
しばらくして立ち上がり、輪になってを歌いだした。腹の出た髭面のおじさんが尺八のような笛を吹く。
巡礼の歌だろう、サンティアゴという言葉は何度も耳にする。リズムカルでいい曲だった。

巡礼オフィス行ってみた。時折ザック姿の巡礼が入って行く。しばらく見ていたが、知り合いはいない。
最後にもう一度大聖堂に入った。
人は少なかった。老人が祭壇前のベンチに頭を垂れてじっと座っていた。

ホテルに戻り、チェックアウトする。いいホテルだった。もう一度来る事があったらここに泊まろう。
土産物屋の通りの先でタクシーを拾い、空港に向かう。
旧市街を抜け、オフィス街に差し掛かる頃、タクシーの窓から急ぎ足で歩く1人の巡礼が見えた。
なんと、あの4人が3人になり、3人が2人になったフランス4人組の1人ではないか。
何があったのかは分からないが、必死にゴール目指して歩いている姿に感動した。

郊外に出るとタクシーは猛スピードで走り、ものの15分で空港に着いた。
この辺は一昨日泊まった Labacolla の近くだな、と思いつつ車を降りた。
時折日の差す雲の多い日だった。

こうして、我々の巡礼旅は終わったのである。全長712.3km。1日平均約28km。ヤコブ様に感謝。

El camino de santiago
スペイン巡礼路の記録
【第一版】

発 行 2018年5月

発行者 杉浦 康孝

